Industry
Dialogue
Interactive
Society Environment Economy
Connected World
Resilience Relationship
Global SDGs
IoT
Economy
AI
Industry
Mobility Support
Safety Culture
Manufacturing
壱岐活き
Smart Agriculture
対話型社会
IoT
Clean Energy
Dialogue
Environment
Resilience Relationship
SDGs
Technology
AI
Society Environment Economy
Interactive
Communications
Infrastructure
Dialogue
Safety Culture
Industry
Global History
Society
Economy
壱岐-粋-な
Society5.0
100年後もみんながイキイキと暮らす島に
-壱岐なSociety5.0の実現-
Smart Agriculture
Industry
Communications
Infrastructure
Mobility Support
Resilience Relationship
Dialogue
Clean Energy
Society Environment Economy
Manufacturing
Communications
Infrastructure
Interactive
Connected World
Global

人の幸せが、島の幸せになる
個を起点とした
「じぶんごと」のまちづくり

市民一人ひとりがもつ課題の延長としての
社会や自然の課題設定をデザインし、だれもが
まちづくりに参加できる仕組みを確立。
市民の幸せが島の幸せに直結するような
人、社会、自然の最適な関係をデザインします。

テクノロジーは、より良い生活の手助けをしてくれます。
しかし、まちづくりの主役はあくまで人と地域。
私たちが考えるスーパーシティでは、
100年後も人々が生き生きと生活できる島を目指します。
豊かな自然。自給自足の循環型社会。自分らしさを大切にできる暮らし。
こういった壱岐らしさをテクノロジーが裏で支えます。

※スーパーシティ：2030年頃に実現される最先端都市構想

OUR VISION

目指すべき姿

市民の幸せ ＝ 壱岐の幸せ ＝ 地球の幸せ

人生をデザイン

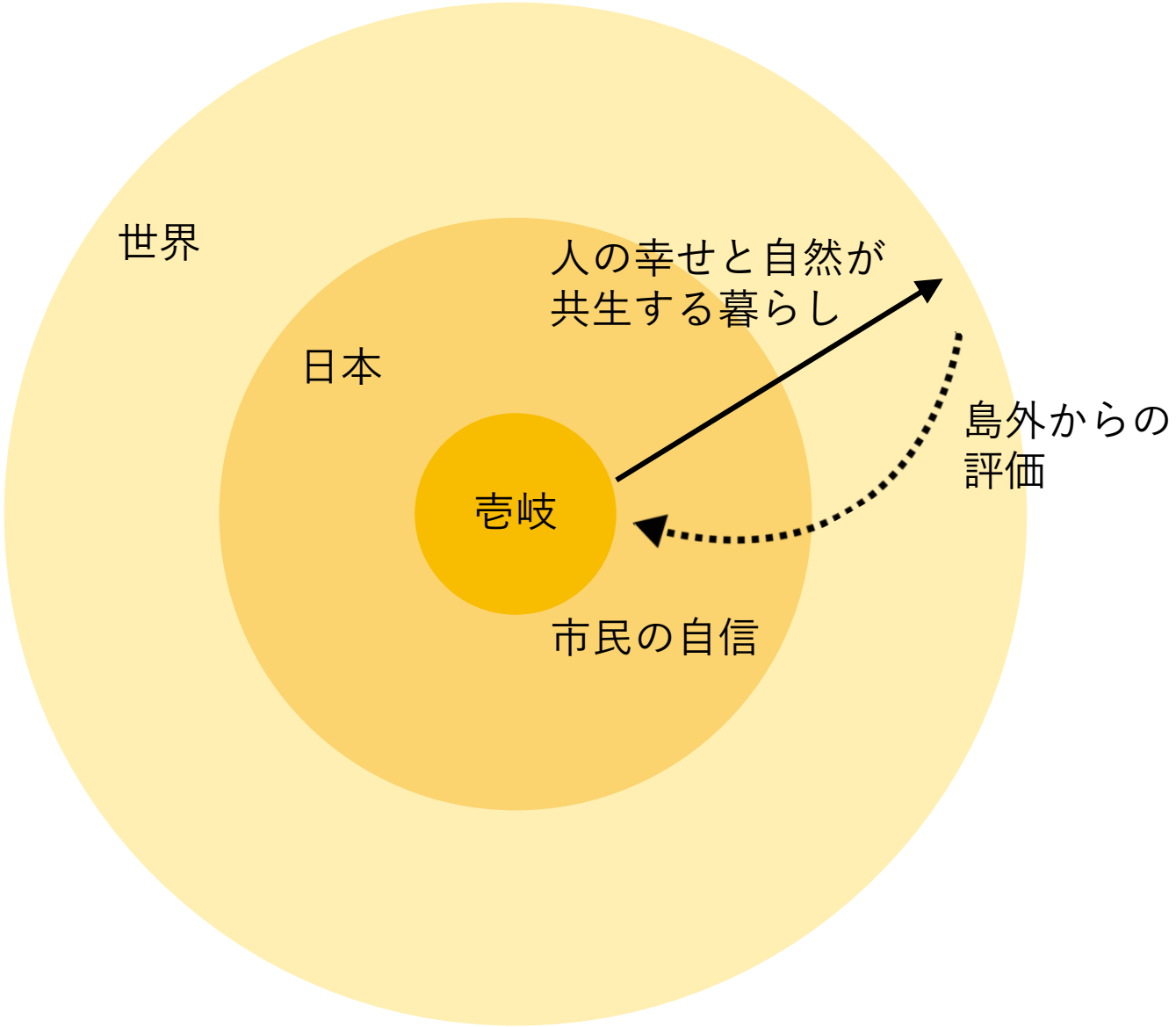
- 自分自身の人生を決めるための教育を受けているしている
- 肉体的、精神的、社会的に健康
- 時間と収入のバランスを考えた新しい働き方をしている
- 社会に積極的に貢献し、長期的な幸福度が上がっている
- 家族や友人との親密な関係、近所の人と良好な関係を築き、趣味を楽しんでいる

地域をデザイン

- 市民が自然と共に生き生きと生活している
- 柔軟な働き方により、人口が増加している
- 新しいアイデア・ビジネスが多発している
- 産業の競争力が上がり、経済が活性化している
- 社会貢献が活発になり、社会全体の幸福度が上がっている
- 貧困層や社会的弱者の人も幸福を感じている
- それぞれが信頼し、支え合うコミュニティが多発することで、安心・安全な社会が築かれている

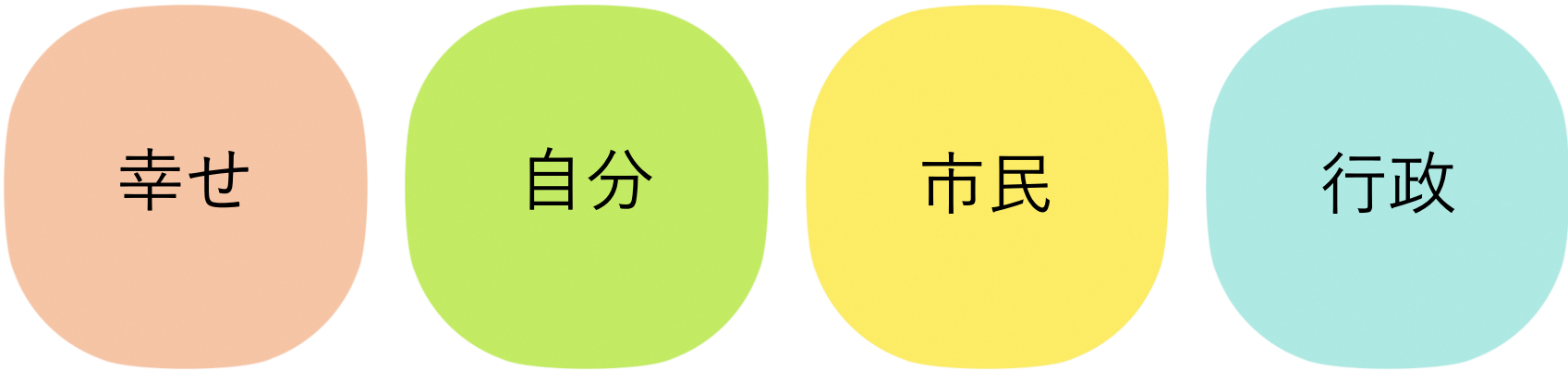
未来をデザイン

- 地域の課題解決方法が具体的な事例として共有され、自治体や国を越えて広まっている
- 大都市への一極集中が改善され、地方分散型の活力ある社会が実現している
- 世界中で持続可能な離島が増えている
- 環境に負荷の少ない持続可能な暮らしが根付いている
- 官民の様々な取り組みが生まれ、気候変動が緩和されている



人の幸せと自然が
共生する暮らしを
デザインし、
壱岐モデルとして
日本の他の地域や海外に広げる。
国内外からの評価が、
市民の誇りを醸成する。

人の新しい豊かさに関連する4つの再定義



幸せの再定義

社会に合わせるから
自分に合わせるへ

社会のルールやモノサシの中での
成功ではなく、
自分が本当にありたい姿を見つけ、
自分のモノサシで生き方を決めている
ことが幸せ。

人それぞれの歩み方やスピードに合わせて
機会を提供できる社会を目指します。

CASE 1

インドネシア

グリーンスクール

学校全体を自給自足化して
全世界から生徒が集まる環境で起業家養成

インドネシアのバリにあるインターナショナルスクールのグリーンスクールは「持続可能な社会を担うリーダー育成」を目標に掲げ、世界一エコな学校として注目されている。幼稚園生から高校生まで様々な年齢の子どもが世界中から集まり、実生活における課題解決を軸とした「起業家精神の育成」という考えの元で学ぶ。周囲の地域とのリサイクル活動や、地域で回収した使用済みの食用油を燃料としたスクールバスなど、地域を巻き込んだ取り組みでも知られる。

自分の再定義

一つだけの個人から
多面的な分人へ

やりたいこと、なりたい自分を
一つに絞る必要はありません。
社会の中で異なる顔や役割を持つ。
多拠点生活や複業で
壱岐では全く別のことに挑戦する。

そのことを柔軟に受け入れ、
温かく支援する社会を目指します。

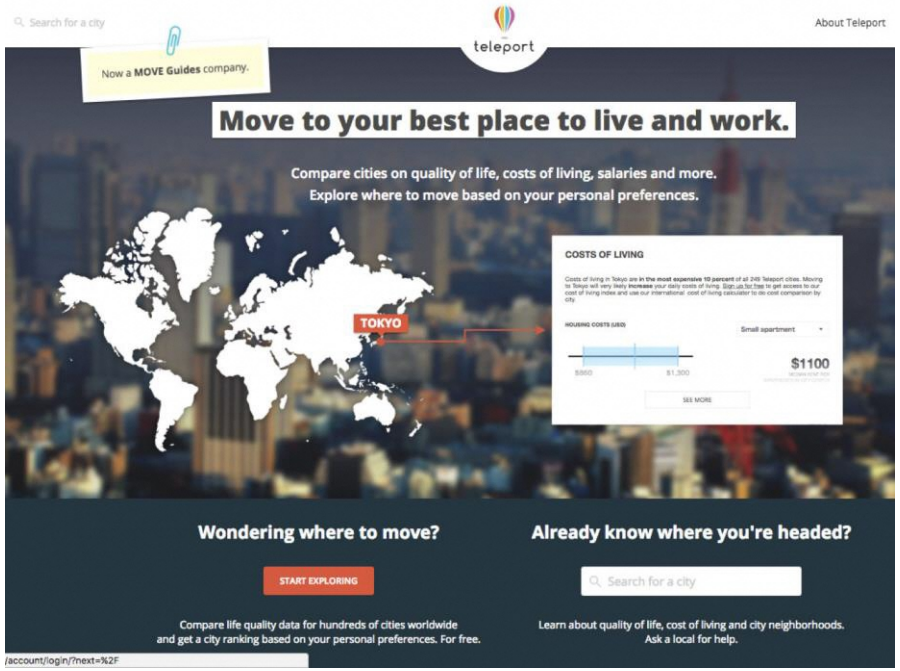
CASE 2

全世界

多拠点サブスク

多拠点生活のためのマッチングサービスや定額サービスが世界で支持

多拠点生活や移住を支援するサービスが世界各地で展開されている。
Teleportは世界中で自分にとって働き、暮らすために最適な場所を調べて紹介してくれるサービス。起業のしやすさ、車以外の交通、家賃の相場、自然、医療など、暮らしのなかで重要視している項目を入力すると、理想的な場所を提案してくれる。
ADDressは日本初の定額制住み放題サービス。会員になると定額で全国にある「家」に住むことができる。



市民の再定義

住民票から
エンゲージメントへ

「市民」は壱岐に住民票を持つ人に限りません。
多拠点生活の拠点として壱岐を選ぶ人、
旅行をきっかけに壱岐のファンになった人、
そうした人々をすべて「壱岐市民」ととらえ、
権利と責任を再定義。

e-市民（電子市民）の仕組みを確立し、
世界中に壱岐市民を増やしていきます。

※エンゲージメント：壱岐に対して愛着を持ち、
一体となって成長し合える関係

CASE 3

エストニア

eレジデンシー

行政サービスのほぼすべてを電子化して全世界に電子国民を持つエストニア

バルト３国のひとつで人口約１３０万人のエストニアでは、電子政府システムを完備。行政手続きのほぼすべてをオンラインで済ませることができる。また、２０１４年に世界で初めて電子国民プログラムを開始。電子国民になれば、エストニア国籍を持っていなくても、国外にいながら同国の電子政府のシステムを利用することができ、法人の設立などが行える仕組みを確立した。

行政の再定義

管理者から
能動的なサポーターへ

市民が本当に必要としている支援は何か。
リクエストを待つのではなく、
能動的な旗振り役として、
市民一人ひとりの要望や可能性を
引き出していきます。

多様な生き方を前提に、
ニーズや声に寄り添った支援を行います。

CASE 4

台湾

v Taiwan

国民が立法の過程に参加できるよう オンラインの討論システムを開発

台湾では、オンラインの討論システムによって国民が立法プロセスに参加できるvTaiwanという仕組みを取り入れている。インターネットを使って、国民から要望や知恵を募り、一定数票を集めたものは政策を立案すべきかどうかの議題に進めることが義務付けられている。法制機関、企業、消費者など様々な立場の人がそれぞれの知識や意見などを共有しながら議論が進められる仕組み。

OUR MISSION

成し遂げること

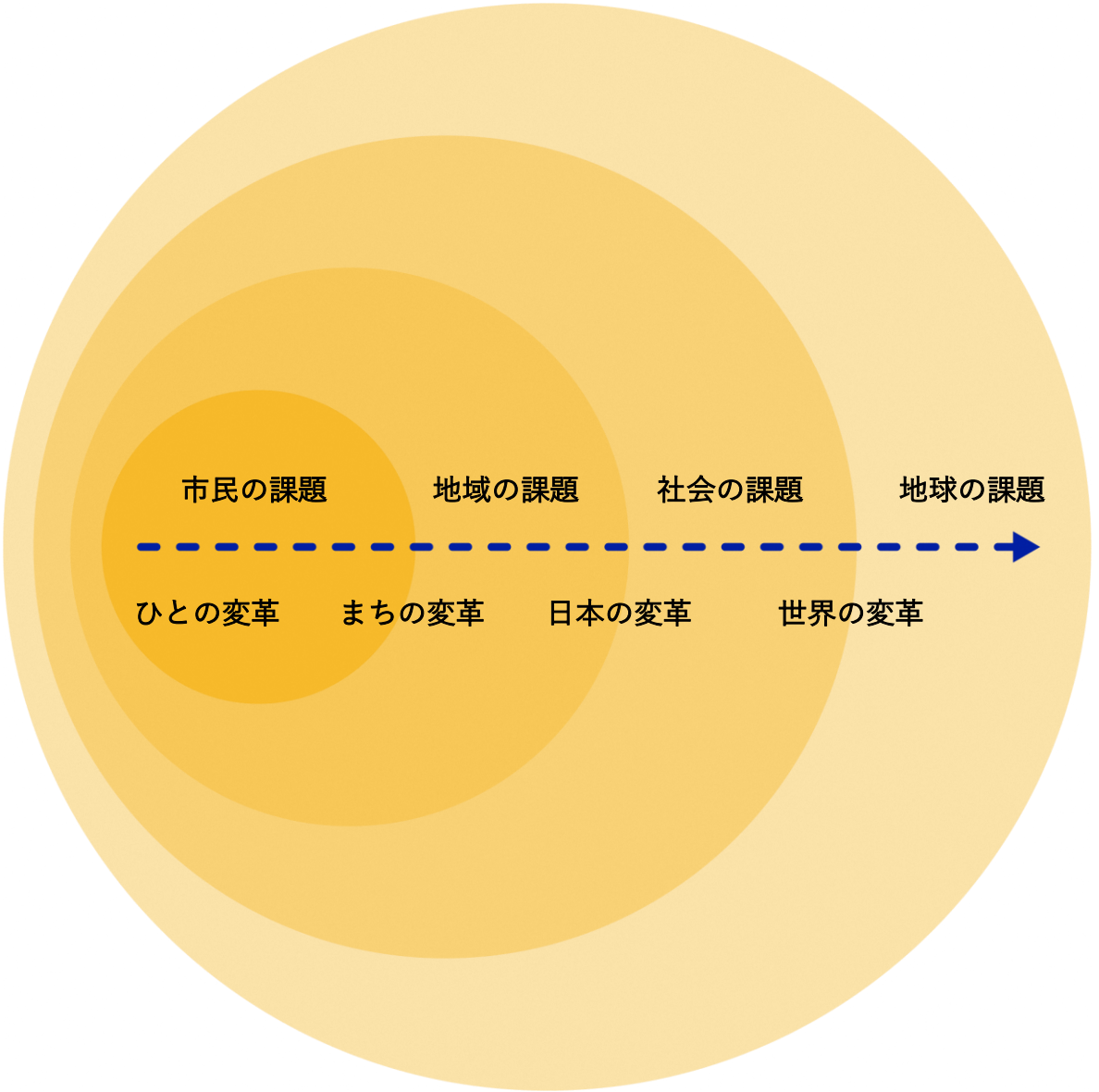
世界で一番
自分らしさが
輝く島へ

市民全員が新しい時代の「のぼせもん」として
自分にとっての幸せな生き方に夢中になれる。
行政の役割は、そのサポートです。
市民が自分らしい生き方や暮らし方を見つけ、
主体的にデザインできる仕組みを
壱岐モデルとして確立させます。

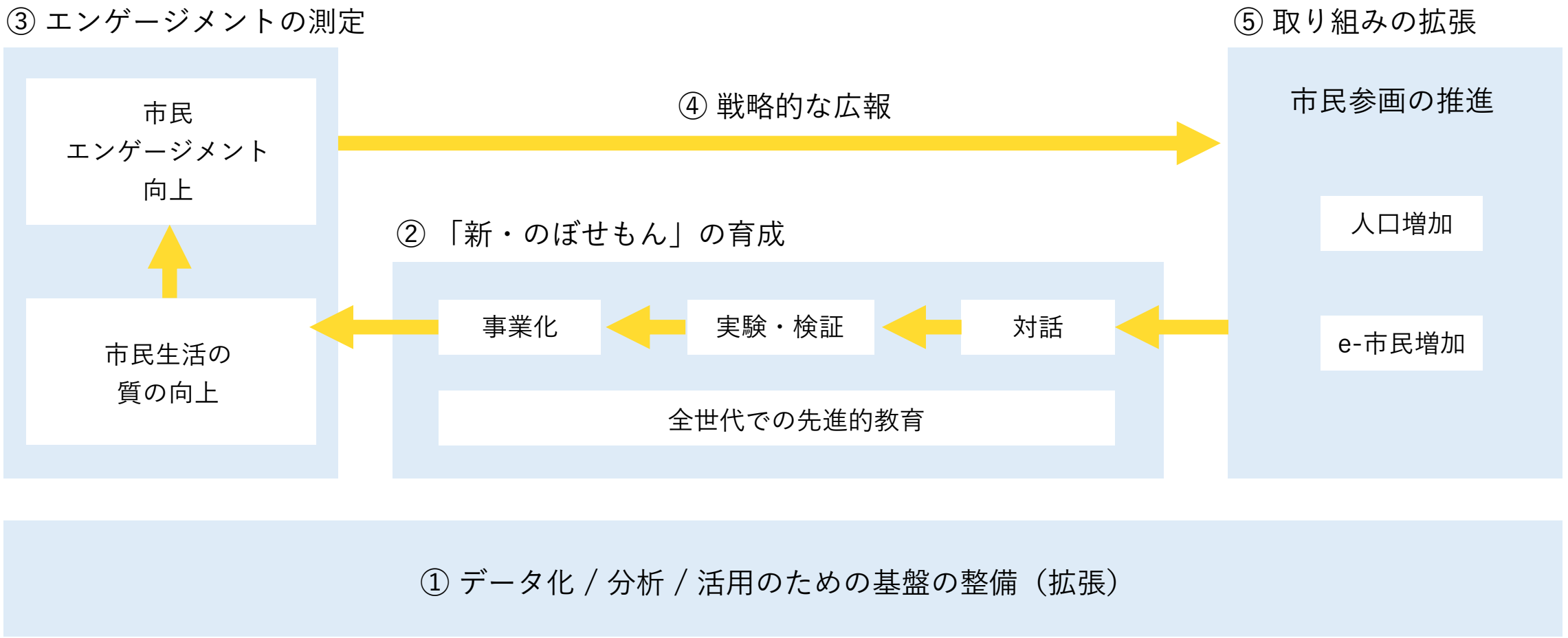
※新・のぼせもん：何事にも夢中になれる人、
　自分の人生に情熱を持って生きている人

個の延長線上にある
社会課題の解決

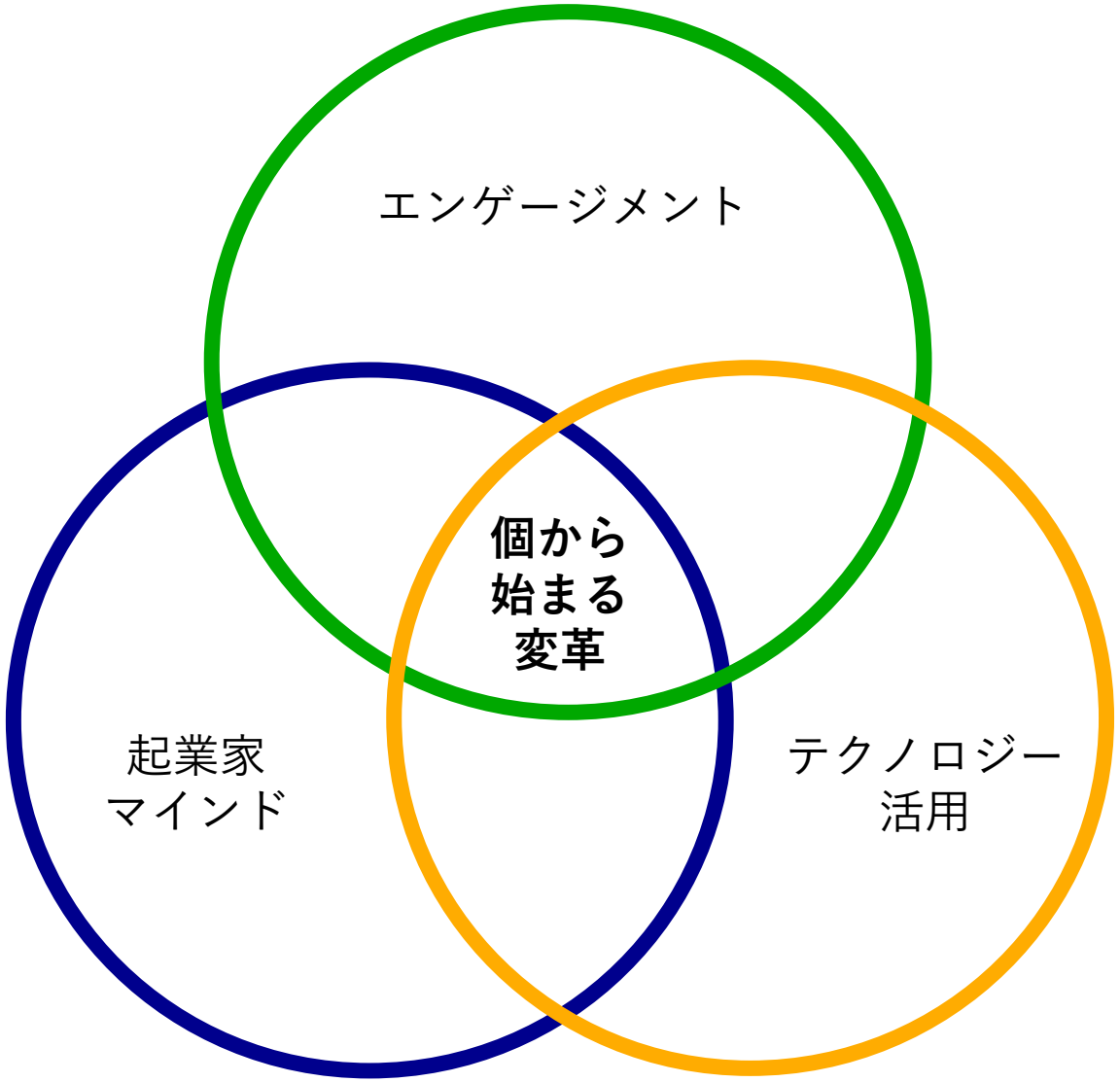
市民一人ひとりの課題を解決することが、
地域、社会、地球の課題解決に直結するような
課題設定をデザイン。
「じぶんごと」として意識し、
自ら解決しようとする市民意識を育てます。



行政主導で土台を構築し、取り組みを循環させながら、段階的に発展させていきます。



まずは市民一人ひとりが変わっていくことを改革の起点とします。



壱岐モデル：市民の意識変容から始まる改革

ひとと行政

Step 1

ひとの変革

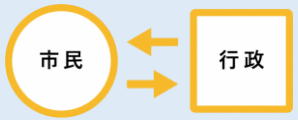
新・のぼせもん
マインドの育成

生活や仕事の上での取り組みを含むまちづくりに主体的に取り組む。取り組むからもっと好きになるという「新・のぼせもん」思考のサイクルを作る。

Step 2

行政の変革

市民と行政を
共創の関係に



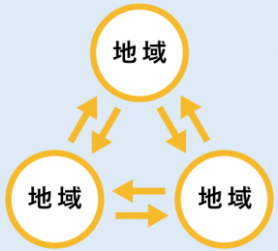
市民のニーズを能動的に拾い上げ、言語化できていない困りごとや要望に応えるためのシステムと仕組みづくりを行う。

ひとと地域

Step 3

まちの変革

信頼関係やネット
ワークの形成

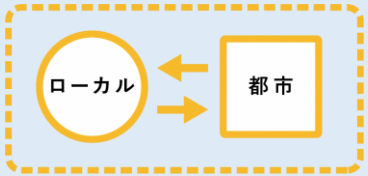


それぞれのまちが持つ強みや魅力を磨き、情報発信することで、住民同士の信頼関係や地域間のネットワークを形成する。

Step 4

区域の変革

新しい生活様式の
推進

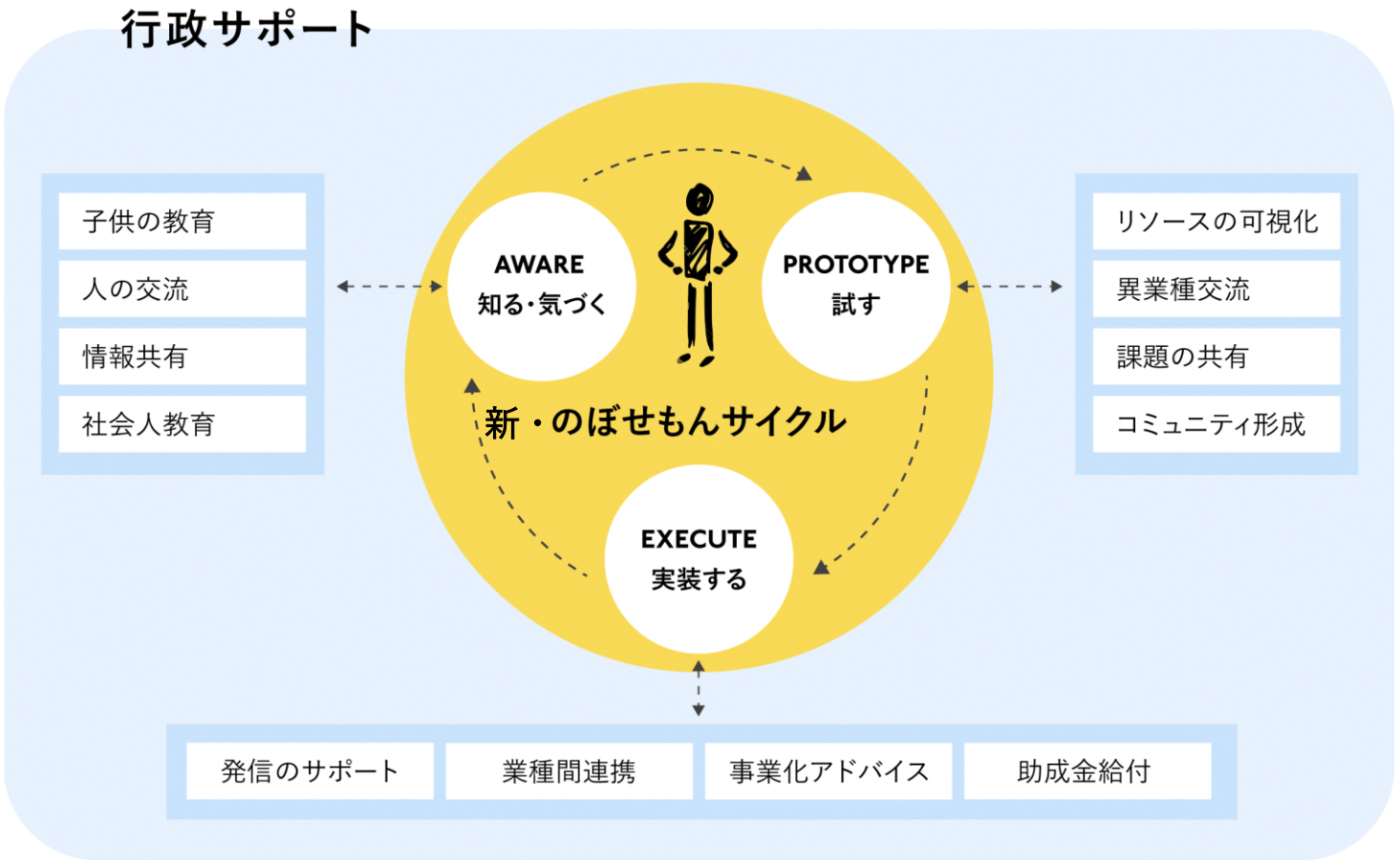


都市の便利さと地方ならではの豊かな暮らしの両方が享受できる新しい生活様式を、行政区域を超えて補い合うことで推進する。

Step 1 Step 2

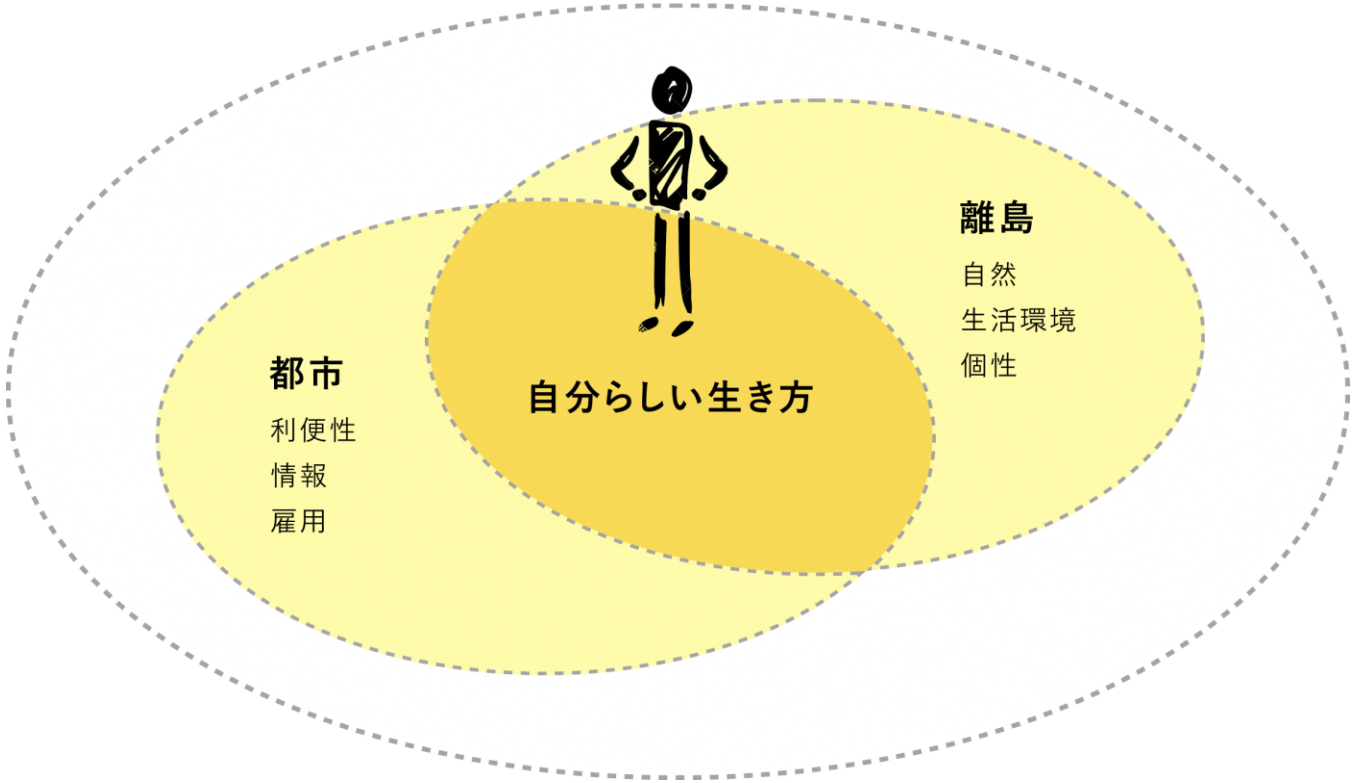
ひとと行政の新しい関係

行政の役割は、市民一人ひとりが主役となり、生き生きと生活するための「新・のぼせもん」のサイクルを後押しすることです。
個人の「こうしたい」「こうなりたい」という意思を起点とし、行政はそれを実現させるための支援の選択肢を可視化。
市民と行政が、お互いにフィードバックをしながら、市民視点で支援を行います。



Step 3 Step 4

ひとと地域の新しい関係



1つの地域にしばられるのではなく、都市と地方、離島と本土など異なる特徴を持った複数の地域を生活領域として捉えます。
それぞれの地域の「いいとこどり」をする生き方を、市民が能動的に選びとることができるシステムを構築することで、市民ひとりが自分らしい生き方をカスタマイズできる社会を実現します。

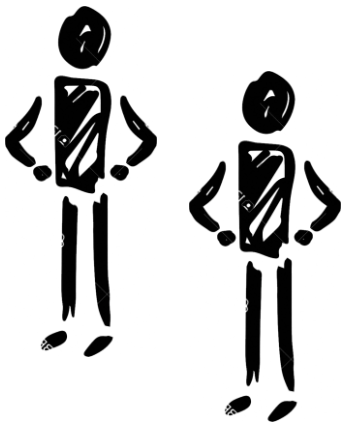
OUR APROACH

壱岐市のアプローチ

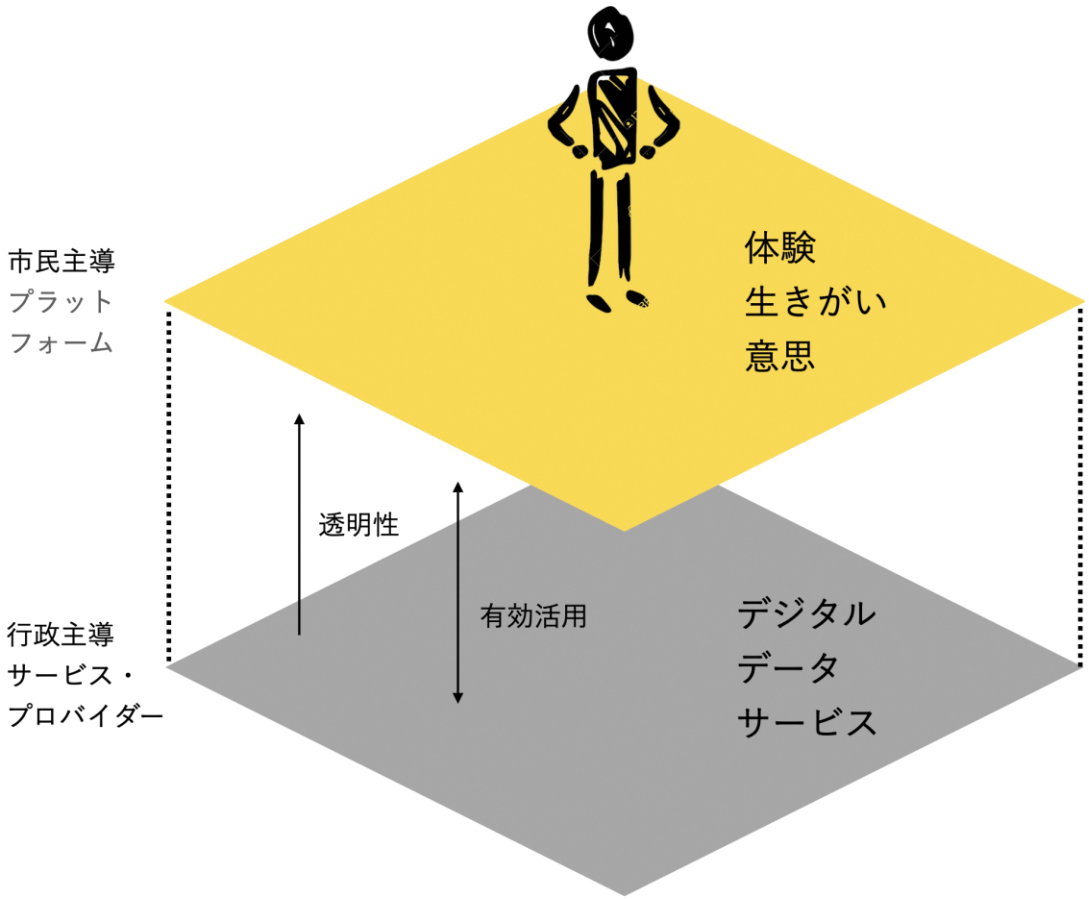
人に優しいテクノロジーの活用

主役は行政ではなく、市民。
テクノロジーではなく人間です。
市民同士が助け、良い刺激を与え合い、コラボレーションを生む。
行政はその仕組みを、テクノロジーを活用しながらデザインします。

オンラインとリアルの掛け合わせで、
だれでも、どこにいてもサポートできる、
サポートが受けられる仕組みを用意します。



人の幸せのためのテクノロジー



裏方としてのデジタル技術

AIやデジタルデータの活用は、
現在のまちづくりにおいて
欠くことのできないツール。
しかし、壱岐市にとって、
テクノロジーの活用の目的は
あくまで市民の幸福の最大化です。
データ活用の透明性を担保したうえで
市民の信頼を獲得し、裏方として、
優しく支える存在として
デジタルを位置づけます。

OUR GOAL

壱岐市が達成すること

持続可能な離島モデルとして
バーチャル政令指定都市に

2030年までに市民（e-市民を含む）を50万人まで増やし、
人口増加率日本一を目指します。
住民と多くのe-市民が壱岐に愛着を持ち、
お互いに成長し合うことで、
持続可能な離島モデルを作っていきます。

「一生、壱岐市民」

壱岐在住高校生 （18）

高校を卒業し、東京の大学に進学。物理的に住む場所は変わるけれど、壱岐市民としての意識は変わらない。壱岐が発行するお得なポイントを利用して、東京の友人を連れて島へは頻繁に帰る予定。将来は東京の企業で働きながら、島でも事業を起こし、二拠点生活を送るイメージを持っている。

「島内ジョブローテ」

壱岐在住旅館女将 （54）

夏休みシーズンはとにかく忙しいので、夏季に仕事が減る地元の焼酎メーカーの従業員を派遣してもらっている。逆に閑散期はうちの従業員に酒蔵を手伝いに行かせている。通年で安定して仕事があるので、安心してスタッフを雇うことができるし、島外からのリゾートアルバイトも長期滞在が可能になった。

「教育はセルフカスタム」

壱岐在住小学生の母 （32）

小学生の娘は、地元の小学校と海外と連携しているオンラインの学校を組み合わせて学んでいる。地域の少人数制と最先端の教育のいいとこどりはベストバランス。以前は高校進学と同時に島外へ出る子どもも多かったが、娘はこのまま島に残りたいと言っている。留学生の受け入れもしてみたい。

「サブスク島ライフ」

福岡在住会社員 （40）

福岡のIT企業で働きながら、壱岐との２拠点生活を送っている。両拠点とも市が運営するシェアハウス利用なので一軒分の家賃で住めるし、不在時のケアも安心。仲間と一緒なので、地域のコミュニティにも入りやすい。車を持っていないので、壱岐ではシェアカーを利用している。

「就職よりマイクロ起業」

壱岐出身元会社員 （28）

地域の食材を生かした地産地消の飲食店を起業。
健康志向の旅行者が訪れるレストランとして様々なメディアでも紹介される人気スポットに。
きっかけは、海外からも参加がある人気の起業家プログラム。とれたての新鮮な食材を使う、島での「当たり前」が壱岐の強みになりうることに気がついた。